

インフラ整備で 地域の発展に貢献する



仙南生コンクリート株式会社

代表取締役 / 大沼 毅彦

所在地 / 釜房工場: 宮城県柴田郡川崎町大字
支倉字中原裏山36-1

T E L / 0224-86-2111

事業
テーマ

【平成29年度補正】
生産プロセスの改善による
生コンクリート需要環境変化への対応実現



仙南生コンクリート株式会社
執行役員 釜房工場長 佐藤 栄樹 氏

信条 常にお客様の目線で、お客様本位で



今回導入した練り混ぜミキサ部分

会社の強みは何ですか？



仙南生コンクリート株式会社1社でなく、サカモトグループとして「地域との共生」を理念に掲げて動いていることです。その情報量や地元建設会社との繋がりも含めた総合力があります。

施設が大掛かりなので故障すると大変ですね



生コンプラント全体を変えると1億5千万円くらいかかるので、今回は生産プロセスの一部変更という形で対応しました。練り混ぜミキサ部分が故障すると交換部品が受注生産なので、操業中断の可能性もありました。ものづくり補助金で導入できて良かったですね。



事務所のモニターで生コンクリートや敷地内を管理する

「地域への貢献」「地域と共に生きる」グループの一員として

林業や住宅、不動産、建設資材や保険などを扱うサカモトグループの一員である当社は蔵王と川崎に工場を持ち、この釜房工場は釜房ダム建設のために1968年に釜房産業株式会社として設立され、現在は生コンクリートの製造販売を行っている。仙台市、名取市、川崎町を供給エリアとしているため、震災後のピーク時だった2013年には供給が間に合わないほどのフル稼働だった。施設の老朽化に伴い、生コンクリートプラントの中核となる練り混ぜミキサ部分の交換を計画していたところに、金融機関からの紹介で本事業を知り応募、補助金を活用しての施設となった。



コンクリートの強度を検査する

になり、受注拡大の基盤を整備することができた。また仙台地区においても高層建築物やより複雑な構造物が増加する中、高流動コンクリート、高強度コンクリート、超高強度コンクリートなどの特殊コンクリートの製造も可能になったため、対応力のある工場として営業面でも積極的にPRすることができるようになった。今後は仙台市内の高層ビルやマンションへの納入エントリーも可能になるので、さらに価値のある仕事を受けていきたい。

生産量が倍増、さらに特殊コンクリートの供給も可能に

この生産プロセスの改善により、従来比で時間当たり生産量が約60㎡増加し、これまでの約2倍になったため、今後の厳しい需要環境下にあっても安定した受注を実現し、さらには進行する大量打設、複数現場需要等への対応も可能



ミキサに投入する材料を運ぶ

今後予定されている社会インフラの整備に貢献する

「今後は東北大学青葉山キャンパスに国が推進する次世代型放射光施設の設置がほぼ確実になっていますし、国道286号のバイパス工事も2027年までの事業です。ほかにも名取川水系の川内沢ダム建設が計画されていますので、コンクリートの需要拡大が見込めます。ミキサ部分の入れ替えでこれまで発生していた定期的な部品交換や修繕発生も最少化でき、安定した操業が可能になったので、そういった大量打設や特殊コンクリートの需要が見込めるプロジェクトの受注に積極的に取り組んでいきたい。」と佐藤釜房工場長は語る。



バブル期の賑やかな現場も見てきた